



施設 広瀬幸平

63
まいん

ひろせきしきねんかん 広瀬歴史記念館



桜の名所 広瀬歴史記念館

建物は、船をイメージして造られ、建物からそびえる塔は、展示室入口に位置しており、『現代の望煙楼』と呼ばれ、潜水艦の潜望鏡のような仕組みを利用して、南北に赤石連峰と燧灘の眺望を満喫することができます。その入口を抜けると、幸平の偉業を伝える、日本最初の鉱山鉄道である別子鉱山鉄道の切り通しがジオラマで再現されています。

そして、幸平の人生について、テーマ毎に映像や実物資料、パネルを用いて紹介されています。



別子鉱山鉄道の
切通しを
ジオラマで再現

ひろせきねんかん 広瀬記念館

は、広瀬幸平の足跡を通して工業都市・新居浜の生い立ちと日本の近代産業の歩みをたどることの出来る施設です。平成9年(1997)にオープンしました。



幸平の生い立ちと日本の近代産業をたどる

蘇った
広瀬幸平銅像

採鉱・製錬や陸運の近代化を推進するなど、わが国殖産興業に尽力した幸平の姿がここに 있습니다。

記念館入口には、幸平の銅像が設置されています。幸平の古希祝いとして住友家が東京美術学校に依頼、製作されたものです。昭和18年(1943)に戦時供出されましたが、後に発見された高村光雲の木型を基に平成15年度(2003)、春に東京藝術大学で復元されました。



館内の様子

ふれあいめぐりあい

重文への
たてやくしゃ
立役者

くばひろよし
久葉裕可

さんは、広瀬歴史記念館の学芸員をお務めの後、平成16年館長に御就任されました。

旧広瀬邸の建造物に関する調査などに関わられ、旧広瀬邸が国の重要文化財指定となる重要な役割を担われました。



くばひろよし
久葉裕可さん

